特別支援教育の扉 №１４３　　令和７年５月９日発行

「元気いっぱい・笑顔いっぱい」

特別支援教育統括コーディネーター　加賀谷　勝

「出会いから1か月」

新学期がスタートして１か月が過ぎました。環境の変化に慣れて意欲的に活動している子どもがいる反面、うまく適応できずに不安のサインを出している子どもがいるかもしれません。子ども自身や家庭のしつけの問題と決め付けず、不安の背景要因に目を向けましょう。

１　不安のサイン

・疲れやすい、元気がなく顔色が悪い。
・落ち着きがない、ぼんやりしている、感情の起伏が激しい、チックが見られる。
・自傷・他害行為がある、登校しぶりが見られる、反抗的になる、好きなことでもやりたがらない、些細なことで泣き出す、物音に敏感になる。

２　不安の背景要因

・今までと環境が変わり、生活の流れに乗れないためにストレスを感じている。
・思い描いていた理想と現実にギャップを感じて学習意欲が低下している。
・病気等で欠席が長くなり、スタートが遅れて不安になっている。
・発達のアンバランスや不安傾向の強い特性があり、運動会練習等の新しい活動や初めての活動に見通しをもてずに戸惑っている。
・ゴールデーンウィーク明けに、生活リズムが崩れて登校しぶりになる。（特に注意が必要なのは、複数の小学校から生徒が集まる中学校の１年生）
・家庭環境に大きな変化があり、不安定になっている。

３　対応

①子どもの特性、発達段階、環境、状況に目を向けて不安の背景要因を考える。
②背景要因は１つではなく、複雑に絡み合っている場合もあるので、保護者から家庭の様子を聞き取る。
③自分の思いを言葉にできる場合は、じっくりと子どもの話を聴く。思いを言葉にできない子どもには、関わる時間を増やしてスキンシップをとって安心感を与える。
④一日の生活に見通しがもてるように、活動内容・時間・場所の流れを見える化するとともに、始めと終わりの違いが具体的に分かるように、活動・場所・人を変える。
⑤音や光等の過敏性に配慮し、教室全体を落ち着いた静かな環境にする。
⑥問題行動だけに注目するのではなく、得意なこと、好きなこと、頑張っていることを見付けて、ほめたり、認めたりする回数を増やして、子どもとよりよい関係性を築く。

引継ぎのある子どもについては、個別の教育支援計画等の客観的な情報を読み直すとともに、この１か月で担任から見たありのままの情報を加えて、今できていること、支援があればできそうなことを整理し、成功体験を増やして自信をもたせましょう。

とれたて直送便

「子どもは、ちゃんと先生を見ています！」

個別の支援が必要な子どもに関わる時間が増えると、他の子どもに我慢させているのではないかと悩むことがあります。元気に挨拶をしたり、トイレのスリッパを並べたりしたときに、当たり前の行動と思わないで、「いつもあなたの頑張りを見ているよ、それでいいんだよ」と、笑顔で認めるメッセージを送るだけで、子どもは大切にされていることを実感し、先生と関わる時間が少なくても安心して活動できます。子どもは、好きな先生と目が合うことで注目されたと気付き、うれしくなります。

子どもが望ましい行動をしたら、アイコンタクト＋笑顔＋認める言葉を送りましょう。